

はしがき

日本労働組合同盟昭和四年夏第三回大會は、同盟創立以來三ヶ年のを
ゆみなき闘争の跡を顧み、且つ現下の客觀的諸條件の推移に鑑み、こ
に同盟運動方針大綱を明示して今後必然的に展開さるべき我等の闘争の
基準を内外に宣明せんとするものである。

思ふに我が同盟の運動方針は今日事新しく成立したものでない。過
去三ヶ年を通じて、我等の同志は全労働階級の利害を忠實に代表して、
益々加重し行く資本の攻勢に抗争し、有効なる戦術と果敢なる行動を以
つて支配階級の暴圧を反撓し、同時に極左及び右翼の分裂主義を排して
一大階級的大衆的統一戦線樹立のために戦ひ來つた。だがこの我等の同
志の血みどろの戦ひは尚ほ生長の初期にあり、ために幾多の不備と欠陥
の避くべからざるものがあつたが、しかも益々激化し深刻化し行く闘争
の過程に於いて、我等の闘争は確實に勝利の歩武を進め來つた。この三
ヶ年間に通ずる我等の同志のたゆみなき闘争の結晶——實踐的並に理論
的努力の統一的成果——これこそは我等の同盟運動方針に外ならない。

一 世界資本主義の推移

世界資本主義は歐洲大戰によつてその巨大なる生産力を破壊せられ、
次いで大戰直後の世界的恐慌の襲來と世界革命運動の抬頭は世界資本主
義の根柢を揺がした。だが國際的カール・アウグストは、必死の努力を以て
無産階級解放運動並に殖民地解放運動に白色恐怖と徹底的弾圧を加へ、
同時に無産階級の犠牲による産業合理化運動を以て破壊されたる生産力
の回復と拡大に成功し、辛うじて世界資本主義の安定を克ち得た。かくて彼等は
余や反動政策の荒暴性を蔽ふに自由主義的假面を代置し、實質的に産業
合理化の最後の仕上げを遂行しつつある。最近に於ける英國労働党内閣
の出現、米國フーバーの執政、我國漢口内閣の出現等は等一聯の政局の
推移は世界資本主義の一時の安定を物語るものである。然しこの安定は
同時に世界資本主義の責任する予者の激化の過程に他ならない。何の過程
とすれば、生産力の拡大、巨大なる資本の蓄積は必然に國際的カール・ア
ウグストを駆つて商品市場と投資市場の獲得の闘争に狂奔せしめ、第二次
世界戦争の危機を醸成すると共に、各国無産階級及び植民地民族は極度
の搾取と弾圧を蒙つて尖鋭なる闘争に邁進しつつある。歐洲に於けるド
イツ賠償會議を中心とする米國金融資本對歐洲資本家聯盟の闘争、東洋
に於ける東支銀道を中心とするソカイエトロシア對日英米等の帝國主義
の暗闘、將また、不戰條約の締結と軍縮會議の成功の宣傳の裏を行く帝